

# 議会だより



銀波の里 冬の風物詩  
(げた・たこの一夜干)



11月30日 老人福祉大会  
(すばらしいハーモニーで観衆を魅了)

No.31 contents

- 町議会の動き……………2～3P
- 常任委員会の活動…3～6P
- 一般質問……………6～8P



11月30日 老人福祉大会  
(今も変らぬ美しい歌声)



12月15日 親子しめ縄作り教室 四海青少年育成会  
(こりゃめんどいわ、なかなかえんわれエ)



1月6日 土庄町消防出初式  
(放水納め)

# 町議会の動き

こんなことが決まりました

## 12月議会定例会

平成19年12月議会定例会は、12月19日から21日までの3日間開催され、平成19年度補正予算9議案・条例関係6議案・人事案件2件・平成18年度決算認定・議員提案1件・その他3議案を審議し原案どおり可決しました。

### 平成19年度補正予算

- 一般会計 5千2百54万3千円
- 簡易水道事業特別会計 41万6千円
- 国民健康保険事業特別会計 1億1千1百62万4千円
- 埋立事業特別会計 1百75万9千円
- 大鐸財産区特別会計 1百44万2千円
- 介護保険事業特別会計 6千8百53万7千円
- 福祉サービス事業特別会計 3百18万6千円
- 病院事業会計 2千9百10万1千円

### 条例関係の主なもの

- 土庄町泉野鯉勢子福祉基金の設置、管理及び処分に関する条例
- 土庄町国民健康保険条例の一部を改正する条例
- 土庄町豊島健康センターの設

置及び管理に関する条例  
土庄町営住宅管理条例の一部を改正する条例  
その他2件

### 工事請負契約の締結について

- ①平成19年度土庄中学校校舎改築電気設備工事 井口電気工事株式会社 請負代金額 7千5百74万7千円
- ②平成19年度土庄中学校校舎改築空調設備工事 田中電気工事株式会社 請負代金額 6千1百27万8千円

### 人事案件

- 人権擁護委員候補者の推薦  
土庄町大部 田川成子氏  
土庄町淵崎 立石文字氏
- 佐伯駿氏・佐伯達也氏・森田三郎氏

### 農業委員会委員候補者の推薦

- 山下正弘氏・大原泰氏・大倉章和氏・佐伯博之氏

### 意見書

道路特定財源諸税の暫定税率延長を求める意見書

### 決算の認定

18年度歳入総額6億8千8百14万8千円、歳出総額6億7千5百51万7千円とそれぞれ前年度に比べ△4.1%、△5.2%と緊縮決算となっております。

一般会計決算の形式収支は4億1千2百63万1千円の黒字ですが、繰越財源、財政調整基金の取り崩しなどを引くと実質単年度収支は4億2百80万6千円の赤字となっております。

一般財源の中心となっている町税では入湯税を除く全ての税目で伸びが見られ、特に町民税では景気回復によるものと思われ、全体で昨年に比べ1億1千3百69万6千円、7.7%の増収であります。

しかし、地方交付税は1億3百9万7千円、と前年度に比べ△4.0%と大きく減額となっております。

交付金、使用料手数料などの落ち込みも昨年同様、大変大きくなっております。当然ながら事業予算も少なく、繰越事業の

関係から国県支出金に併せ町債も小さくなっております。経常収支比率につきましては今年度87.0%と少し下がり、前年度より2.1%低くなっております。

県平均が90.1%であり、少し

好転の兆しが見えてはいるものの、なお財政の硬直化が目立っているのが現状であります。財政調整基金も2億3千5百97万2千円減少して、6億4千8百82万4千円という苦しい状況です。

一方起債については4億5千5百22万6千円は減ったものの一般会計、企業・特別会計を含めると、百億3千7百31万1千円の町債借入れとなっております。町民1人につき59万7千7百79円の借金をしていることとなります。

公債費が平成13年度をピークに減少してきているものの、扶助費をはじめ、福祉関係特別会計繰り出し金の増加が深刻になつてきます。

単独町を選択したものの、大変な状態に変わりはありません。以上、各課とも慎重に審議をし、町長を始め執行部に対し、苦言・提言を申し上げた上で、すべての決算を承認したことを報告します。

### 《総務課》

ホームページのバナー広告、郵便料の節減、自治振興費と自治会統合案、電算委託料の節減、防災行政無線の利用率とデジタル化、タンカー油流出事故、庁舎利用への経費負担、広域への負担金、特別交付税の種類、補助金・交付金・貸付金の執行と調査報告、財政調整基金残高と財政再建計画、パラスシートへの推移、退職手当償、消防

団の充実と自主防災組織、町有地の売却等。

### 《議会事務局》

議案の提出状況、議員研修の実施、決算特別委員会での政策的内容の説明、2委員会合同での視察研修等。

### 《出納室》

物品の購入、資金運用、伝票の審査件数、財調残高等。

### 《企画課》

広報紙への広告掲載、フレックスタイムの導入、バス乗車への対策と地域生活交通路線、離島航路補助における欠損見込み、職員研修と意識改革、人件費の抑制と職員数の削減、おせっかいパティ計画、負担金・分担金の抑制、職員の年齢比率、職員の給与費、循環バス等。

### 《住民環境課》

御影浄苑の操業延長と契約締結、資源ゴミの回収、し尿処理費の決算減額、合併浄化槽の設置状況、花づくり事業等。

### 《農林水産課》

農業集落排水事業の見直し、農業委員会の定数削減の検討、松くい虫の薬剤の地上散布と効果、林業振興等。

### 《教育総務課》

土庄幼稚園の借地料の見直し、廃校施設の備品管理、学校評議員の活動、給食材料の地元購入、学校の図書館、中学校遠距離通学補助金、学校跡地問題への進展、スクールバスの民営化、小学校体育館の耐震補強と状況等。

### 《生涯学習課》

総合会館・高見山公園などの施設活用実績の向上、青少年健全育成補助金、廃校後の体育館の管理、体育館の耐震状況、清掃委託料の契約、大坂城残石公園の施設管理委託料、巡回文庫、町民プールの整備、放課後子ども教室の再検討等。

《中央病院》

特別損失の取り扱い、未収金の状況と対策、緊急ヘリポートの変更予定、医療サービス向上、産婦人科医の確保、看護基準への移行、診療報酬の改定、療養病床と介護型病床廃止への考え方、通院によるリハビリ、大部への巡回診療、AEDの設置、長期入院、待ち時間等の苦情、看護師の積極的募集等。

《税務課》

国保税における軽減世帯と非軽減世帯の割合、軽自動車登録受付時間の短縮、滞納の未然防止と滞納整理、延滞加算金の増収、徴収率、新規滞納者対策、分納の状況、広域への滞納整理等。

《商工観光課》

貸付金の廃止、負担金補助金の費用対効果、観光PR用DVDの反響と効果、ホームページにおけるPR効果、修学旅行者の減少対策、桜の植樹と管理、観光施策への商工観光課の考え方、オリブ植栽百周年記念事業、課の体制と業務内容等。

《福祉課》

扶助費における不用額の発生要因、社会的弱者の自立政策の効果、老人ホーム入所措置事業委託料、小豆広域への負担金の内容、乳児医療費全額支給事業における補助対象外、年金納付記録不備問題のわが町の状況、国保事業における繰入金金の状況、国保保険料の賦課徴収費、老人保健における繰入金・雑収入、地域支援事業の実施成果、基金繰入金における予算と決算額、障害者自立支援法、病院でのリハビリ対応要請、国保にかかる医療費の状況、障害者雇用率、社会福祉協議会の運営、点字新聞の購読状況等。

《健康増進課》

献血の状況、検診率向上と医療費の関係、人間ドックへの対応、ヘルパーの需要と登録ヘルパーの確保、母子愛育会の存続、介護認定基準の改正、訪問介護における民間業者数、老人介護

支援センターと包括支援センターの差、障害者居宅介護の訪問数と入浴サービス数等。

《建設課》

設計変更等における受注側主導の傾向、町道認定への基準と現状、県高潮対策として腰掛川の状況、土庄港の耐震整備と近辺整備状況計画、道路台帳整備、都市下水道整備における計画額、自然災害対策（土砂災害・高潮等）への緊急時取り組み、遊漁船の係船料徴収、漁港港湾の区別、大木戸住宅の耐震診断等。

《水道課》

畝木・小瀬間の給水事業の進捗状況、豊島・小部の水不足の抜本的対策、繰入金の内容、吉田ダム負担金の内容、配水管の布設替えの進捗、漏水率、特別損失の内容、肥土山の配水地整備計画等。

《人権対策課》

小海浜住宅建替事業の進捗、児童館・隣保館の箇所数と耐震基準、特別対策事業の存続、児童館・隣保館の利用状況等。

常任委員会の活動

総務建設委員会

総務課

視察研修



淡路島、野島断層保存館にて震災のすさまじさを見る

10月30日・31日に兵庫県市川町と淡路市へ視察研修にまいりました。市川町ではわが町での防災行政無線の老朽化と平成28年のアナログ電波使用期限となり、デジタル化となるための準備として先進町の取り組み方を学びました。併せて先の合併では協議会による意向調査で単独町を選択せざるを得なかった町として参考とさせていただきます。防災行政無線では、島嶼部での電波のとらえ方などと大きく差がありました。情報収集に特に力を入れ、有利な補助や設備投資を受けていました。合併に関しましては、厳しく現状を受け止め、行財政改革などに積極的に取り組んでいま

た。

淡路市では北淡震災記念公園・野島断層保存館・赤い屋根産直市場へまいりました。震災時の体験及び惨状の原形がとどめられた施設として、今更ながら凍りつく思いでした。特に消防団員の常日頃からの老人世帯の把握などといった活動には頭の下がる教訓となりました。

弁護士費用請求事件の和解・訴訟費用額の確定処分申し立て事件の額の確定

弁護士費用請求事件の和解について、小江の町有地の原状回復及び管理懈怠事件の判決確定後の弁護士費用請求事件（2百万円）を裁判所の提示（100万3000円）により和解したい。

また、訴訟費用額の確定処分申し立て事件の額の確定につきましても、裁判所からそれぞれ当事者に対し額の決定（45万1千2百46円）がありましたので、これに応じたい。

委員より、塩本元町長の家族にまで支払い義務があり、決定したことで仕方のないことだが申し訳なく思う。長くかかった問題ですが、これで一応の落着となるようです。

学校跡地利用について報告

旧大鐸小学校については地元大鐸小学校跡地利用対策協議会の支援もあり、NPO法人による小規模多機能型居宅介護施設として、10月25日から業務開始

となっております。

旧大部小学校は、一部高齢者ふれあいサロンの利用され、今後においては大部小学校の歴史的経緯等を展示することも考えられているようです。

旧戸形小学校については、芸術・文化・体験型の新たな集客施設として「アート・ビオトープ」をNPO法人で運営したい要望があるようです。

申し入れがあったのは、(株)二期リゾートという民間会社で地域住民の協力を得ながら、地元誇れる集客施設として、新たな観光と学びの事業を定着させたいとの方針のようです。

委員より、今後は、議会も行政もかわっていくことになる。学校跡地に関心をもち地域ぐるみで目指している事業なので経過報告を受けながら側面から見守って行きたい。

平成20年度予算編成方針

財政見通しとして、歳入の根幹を成す町税は都市部のような景気回復は見込めず、地方交付税は新型交付税の導入又三位一体改革の影響等により大幅な減少が予想され、一般財源の確保が非常に厳しい状況にあります。歳出面においては、公債費や扶助費などの義務的経費の増加、施設の老朽化に伴う普通建設事業の大幅な増加が見込まれるなど、財政需要の増大に加え、財政調整基金の減少などにより極めて厳しい状況が続くとのこと

でした。

委員より、各省庁の予算を出  
来るだけうまく活用できるよう  
研究して欲しい。予算が厳しい  
ということは住民も理解してい  
るが、事務の無駄を省き頑張っ  
て欲しいという意見がありました。

### 税務課

#### 国保税の条例一部改正

平成20年4月から65歳以上75  
歳未満の国保被保険者世帯の国  
保税を介護保険料と同じく年金  
から天引きされるようになります。

これにつきましては、年金を  
年額18万円以上受給されている  
世帯主が特別徴収対象者となり  
ます。

特別徴収の対象外には4点の  
例外があり従来どおりの納税通  
知書による納付となります。65  
歳未満の被保険者がその世帯に  
いる場合などがそのなります。

特別徴収の方法としては、介  
護保険料の特別徴収の規定が準  
用されるとのことで、計算例な  
どを上げ詳しく説明がありまし  
た。

委員より、徴収率は高くなる  
のかとの質問があり、対象者が  
どの程度になるかですが、後期  
高齢者医療の75歳以上の方もそ  
うなるとのことでした。

### 出納室

10月1日から「日本郵政公社」  
が民営化となり、「株式会社ゆう  
ちょ銀行」となったことに伴い、  
9月28日付で「日本郵政公社」  
を指定収納代理機関に指定し、  
発定した「ゆうちょ銀行」を収  
納代理金融機関として指定した  
という報告がありました。

委員より、これまでと何か変  
わることになるのかとの質問が  
あり、今までとまったく同様で  
すが、郵便局のオンラインがつ  
ながらないので、その手続きが  
必要との説明がありました。

### 建設課・農林水産課

#### 高潮対策事業の進捗報告

平成16年の8月・9月と台風  
16号及び18号により、かつてな  
い高潮被害を受け、被害の原因  
である排水路からの逆流と護岸  
の天端高不足への早急な対応が  
図られました。

香川県においては、平成18年  
3月に津波・高潮対策整備推進  
アクションプログラムを作成し、  
短期（10年）、中期（20年）、長  
期（30年）に分けた整備方針が  
打ち出されました。

町としては、平成16年に城、  
東内浜、大開の各ポンプ場を復  
旧し、平成17年度からの県・町  
の護岸・フラップゲートの整備  
については図上で説明がありま

した。

併せて、農林水産課からも平  
成17年度以降王子前漁港、四海  
漁港（沖ノ島地区）と整備し、  
平成20年から21年度にかけては  
同じく沖ノ島地区物揚場と田井  
漁港の護岸を整備したいとのこ  
とであります。

委員より、被害の軽かった箇  
所も含め検討してもらいたいと  
の意見がありました。

#### 土庄港の吉ヶ浦の駐車場

吉ヶ浦県有地を有料駐車場と  
するために県関係との協議が整  
い譲渡の承認が得られるとの報  
告があり、これからの対応とし  
ては、平成19年12月までに国と  
協議し、平成20年2月に財産管  
理への協議、4月内定、6月に  
譲渡契約予定とのことでした。

委員より、過去、池田港との  
関連で無料とすることになって  
いたのではとの質問がありまし  
たが、そういう経過も過去には  
あったが、今の置きっ放しの状  
況を見ると何とかしなくてはい  
けない。道路まで置かれて、管  
理のしようもないということだ  
と県も困り、方針を変更し駐車場  
とする計画を立て、その途中経  
過を報告していますとのことだ  
した。

#### 農業集落排水施設使用料改正

監査等でも指摘を受けていた  
が、運営に関し直ちに改良出来  
る状況ではなく、住民環境課か  
らし尿と汚泥の見直し案が出て

おり、これに連動した形での提  
案ということでした。

加入戸数と施設の運転費用な  
どの説明があり、これに見合う  
歳入部分の見直しということに  
なり、11%程度のアップを予定  
しているようでした。

委員より、前々からの懸案事  
項ということだったが手がつか  
なかった、とりあえずの公平さ  
ということ、合併浄化槽と同  
程度が望ましいとの意見があり  
ました。

### 水道課

#### 現在の貯水状況の説明

平成14年度からの雨量比較と  
平成12年、14年の濁水対策本部  
設置時の貯水量と現在の状況の  
説明がありました。

冬濁水ということで、雨もあ  
まり期待できず非常に厳しい状  
況で、山田ダム貯水量が約8  
万トン、豊島地区が約2万トン  
に達するのは12月中旬あたり  
になるとのことです。

担当課からは、今回は小豆島  
町と足並みを合わせた対応にな  
るので、その際にはご相談した  
いとのことでした。

## 教育民生委員会

### 視察研修



旧三和中学廃校跡地利用における託児所見学

#### 広島県神石高原町

「廃校施設の有効活用（小島  
総合福祉施設）」

我が町における廃校施設の活用  
事例としては、大鐔小学校跡地  
の一部を利用した小規模多機能  
型居宅介護施設があるが、今後  
は、さらに少子化による学校再  
編が進み、廃校施設や空教室な  
どの活用における課題が生じて  
くると考えられる。

廃校施設の活用については、具  
体的に配食センター、託児所、  
放課後児童施設、高齢者生活支  
援施設など、福祉の向上を始め  
とする事業により、地域の活性  
化を図ることが必要と思われる。  
そのためには、町長の力強いリ  
ーダーシップのもと、執行部に  
よる廃校後の地域活性化の拠点  
づくりに対する熱意と情熱と行  
動力で、有効活用へ向けた協議

をするるとともに、国・県等への事業に対する補助制度の調査研究を行い、執行部、議会、地域住民が一体となり知恵と力を出し合い、施設の有効活用が図れるよう、一つ一つ具体的に取り組んでいくことが必要である。

**広島県尾道市**

空き店舗を利用した「ふれあいサロン」（荒神堂サロン）」

少子・高齢化が急激に進行する中、高齢者や独り暮らしの方々が安心・安全に生活を送るための一つの方法として、「ふれあいサロン」のような介護予防とふれあいを目的とした、仲間や地域の人々との交流の場の設置は、非常に効果的であると思われる。

また、「荒神堂サロン」では、商店街の空き店舗を利用することにより、高齢者や子育て中のお母さんはもとより、商店街の買い物客や観光客までもが訪れる、地域活性化の拠点としての役割も担っている。

土庄町においても、廃校となった学校施設をはじめとする空き店舗や空き家などを利用し、地域の実情に合った「誰でも気軽に集える場」としての交流スペースが各地区に設置できれば、少子・高齢化に対応した高齢者福祉、さらには地域福祉の向上につながるものと考えられる。

そのためには、町、社協、ボランティア等がより一層の連携をとり、地域とのコミュニケーションを十分図りながら、仲間

や地域の人々との交流の中で安心して暮らせるまちづくりの推進を行うことが必要である。以上の報告書を町長にも参考とされるよう提出しました。

**教育総務課**

**土庄中学校校舎改築工事**

平成20年1月25日11時には起工式が行なわれる予定であり、議員全員への案内があるとのこと。当初は特別教室など部分的な設置であったクーラーが、予算の関係から全教室に設置できる。また、平成21年1月には落成となるので、簡単な落成式を考えているとの報告がありました。

**生涯学習課**

**放課後子ども教室報告**

絡み合わなかったのは、①1年生から3年生を対象としているが何故全学年を対象としないのか。②刈崎が何故出来ないのか、何故土庄・刈崎だけなのか。③再編後の跡地利用としてはどう考えているのか。④文科省と厚労省の考え方があ

るがどちらで行くのか。この4点について執行部からの適格な回答がないため再々度の委員会継続となった。中味については土庄小学校では平成19年度予算5百95万1千

円までコーディネートを雇い、対象者26人でスムーズにプランどおり進んでいました。刈崎については場所が確保できていないので検討中であることを聞きました。

こんなことが出来ているのに、きちんとした報告がなかったためだと思えます。10月11日には、前回の委員会以降の変更点として刈崎地区が旧図書館で話がつき、進みかけたとの報告がありました。また、担当課の方針として、放課後子ども教室の進め方の説明があり、方向性の確認が出来ました。

委員の放課後子ども教室への思いとのギャップ、文科省と厚労省の制度比較における選択、この問題の底辺には学校再編という大きな流れの中での教育の拠点づくりが複雑に絡み合い、まとまらなかつたのではないかと思います。

**委員より**、地域の子どもは地域で見るといふ雰囲気作りから進めてもらいたい。また、地域、場所、時間などのアンケートを取り尋ねてみてはどうかなどの意見がありました。

担当課からは、子どもの居場所づくりを中心に考えていきたい。アンケートについても早速検討したいとのことでした。11月21日には、早速、アンケート案について提出があり、3点を修正のうえ再度の提出をお願いしました。

**委員より**、全ての児童を対象

に全地区で行うべきとの意見もありましたが、当然理想とするところであるが、当面としては進められるところから進め、将来的には理想に近づきたいとの答弁でした。

**福祉課**

**後期高齢者医療制度**

これまでの老人保険制度から、平成20年度4月より益々高騰を続ける医療費対策として、75歳以上の方にも保険料を負担していただく制度に変わります。医療費の1割を患者本人に、また、現役並みの所得のある方には3割を負担いただくようになります。

要するに苦しくなってきた医療制度に高齢者からの負担もいだけることになります。また、県内全ての市町村が加入組織することになりますので、医療費の年度ごとの大きな増減額を押さえ平準化することにより、年間予測が立ちやすく財源確保にも見込みがつくという利点もあるようです。

ただ、町民1人あたりの医療費が少なく、健康づくり日本一を目指す土庄町にとっては、保険料は少し高くつくことになりそうです。

**特定検診**

これまで実施されていた住民基本健康診査が廃止され、生活習慣病の予防と早期発見を徹底

するため、40歳から74歳以下の被保険者・被扶養者を対象とした特定検診と特定保健指導の実施が20年4月から義務付け開始されます。

内臓脂肪症候群に着目したこの制度により、早期発見と予防に力点を置き医療費とそれに伴う税負担を少なくすることが目的です。

**委員より**、この制度への取り組み方を文書送付・広報誌・防災無線などを利用し、うまくPRするようにとの意見がありました。

**建設中の豊島診療所報告**

名称は「土庄町豊島健康センター」とし、健康増進課が管理し、平成20年1月4日から診療予定とのことです。

併せて、中央病院事務長から従来どおり巡回診療を豊島で週4回実施しますが、週2回を健康センターで、あとの2回は唐櫃の浜公民館で診療を予定しているとの報告がありました。

**人権対策課**

**小海浜住宅建替事業に伴う新家賃の算定**

事業については計画通り進み、建設用地の購入及びこれに伴う補償関連事業も終わり、11月7日には敷地造成設計委託と建設における実施設計業務委託を発注したとのこと。

家賃算定については、県連要求や他町の状況を参考とし応能応益と限度額の両方を合せた家賃算定となりました。

利便性係数を加え、激変緩和措置として7年間の傾斜家賃としているようです。

これをもって、今後、地元協議会との協議を進めていくこととなります。

委員より、入居者への金額の説明は出来ているのか、段階的に7年が上がっていくことの説明は出来ているのか、その了解は得られているのかといった質問があり、概算の説明はしているが了解は得られていない、これからの協議となるとの説明でした。

住民環境課

し尿汲み取り手数料の改定と浄化槽汚泥処理料

町民の方に数値目標を含めた、分かりやすく説明が出来るものを提出くださいとのことでの継続調査でした。

各市町村における一回あたりの汲み取り料金比較では、小豆島町が3千7百29円、土庄町が3千2百13円、あと浄化槽汚泥処理料の比較、年度別収集処理費などをグラフに表した、詳細な現状説明があり、よく理解できました。

御影浄苑の施設にかかる元利償還も終わりましたが、今後の

御影浄苑の10カ年整備計画などの負担などが考えられます。

委員より、18年に元利償還が終わった時点で何故基幹整備に取り掛からなかったのかの質問に対し、市町村合併、継続などの話があり整備にまでは入れなかった。また、広域施設ということで旧隣の財政状況のこともあり現実的には整備費を計画的に予算化できなかった。

処理費も年々増加することが想定されるにもかかわらず手数料の20年据え置きとなったのか。

10カ年の操業延長となると保守10年計画は必要であり、この計画に基づき算出させていただいた。今後はこの計画案に従い進めざるをえないとの説明でした。

生活関連の税等が値上げ状態となっている現実からすると値上げには賛成しかねるが、やむを得ないという状況でもありません。

住民生活に直結する問題でもあり、もう少し時間を割き、具体的な理由、施設の現状等を広報誌などで住民にPRし、理解が得られるよう検討をお願いしました。



町政に対する質問 12月定例会 一般質問事項

川口幸路議員

町内の環境美化

犬の糞の後始末等について、もう少し住民に啓発強化をどうするか。

自治会には回覧をお願いし、また立看板等により注意を喚起しておりますが十分な効果が現れていません。今後はさらに町広報による周知啓発を進め、町民、観光客などみんなが気持ちよく住めるまちづくりに努力したい。

成人式の実施時期

成人式の実施時期について、アンケート調査等を含めて教育長の考え方を伺きたい。

近く検討委員会による答申案も作成され、委員長から正式に町長へ答申される運びとなっております。出された答申については、内容を尊重し、町長の決裁を仰ぎたい。

柳生好彦議員

未来の土庄町の小学校のあり方

計画的な建設用地の取得について。

小学校再編協議会を立ち上げ1校にすべきか、2校にすべきかを審議していただいております。現時点では用地の取得の議論まではしておりません。用地取得の問題が生じた場合は議会と十分相談しながら、進めて行きたい。

議会だよりの編集のあり方

本会議において質疑をされ決定された内容の真実の表現のあり方について。

原案の作成については、できるだけ忠実に答弁内容を盛り込むべきところですが、文字数等の制限もあることから、十分に表現しきれない部分も多々あるのではないかと思えます。今後は質問をされた議員の皆様の意図が、できるだけ答弁に反映されるよう工夫をし、又住民の方々に誤解が生じないよう努力をして参りたい。

\*\*\*\*\*

なお、9月議会の高見山グラウンド整備に関する町長答弁については、次のとおり、追記訂正いたします。

《訂正のお知らせ》

所管課の原稿作成時に町長答弁部分の欠如があり、訂正をいただきたいと申し出がありましたので、議会だより第30号7ページ、柳生議員の一般質問答弁を次のとおり訂正いたします。

(答) 高見山グラウンドについては、様々な整備充実のポイントが考えられますが、町の財政難もあり、現状での維持管理が精一杯というのが実情です。施設の充実に向けた計画は今のところ持っておりませんが、今後工夫していかなければならないと考えております。

川本貴也議員

土庄港整備状況

6月定例会の一般質問後の進展状況をお聞かせください。

7月より行っていた本体内陸上部の地盤改良を終え、岸壁の鋼管杭の上に置くジャケット製作も終わり、10月に大部港に仮置きしております。現在は、その上に置く床版の製作に当たっております。高潮対策については、20年度からは工事に着手し、町営駐車場からターミナルにかけて胸壁の高上げコンクリートを実施する予定と

聞いております。次に、国道436号から第一岸壁までの道路の整備については、概略設計を作成中であり、来年度については、関係機関と協議しながら実施設計を作成することを目標に要望していきたい。

### 丹生則幸議員

①今後の具体的な取り組みについて。  
②小豆島町への働き掛けについて。

行政調査研究班の答申書などを参考にしながら、正式な合併協議会を立ち上げるまでに、ある程度の合意形成ができないかなど検討したいと考えております。また、小豆島町の町長さんとは非公式な場においては意見の交換を行っておりますが、2町が合併した小豆島町では、未だ安定した組織の状況下に至っていないようです。今後可能性がある限り、合併に向けての環境づくりに努めて参りたい。

### 中学校校舎改築工事

現在の進捗状況と今後の計画について。  
土庄中学校の校舎改築工事については、仮設校舎

も完成し引越しも行っております。また、当初予算化していたよりも、総額において約一億一千万円のコストダウンになっております。次に、3学期より新校舎に入れるかどうかについては、建築確認の審査が長くかかる可能性が出てきます。また、余った予算については、町財政も逼迫している折から、新規項目の追加は非常に厳しい状況との認識をしております。次に太陽光発電については、建設検討委員会においても賛否両論がありまして答申に盛り込むまでには到っておりません。今後は厳しい財政事情を考慮し、導入をしない方針を固めております。

### 山口保範議員

合併に関する方針、単独行政運営、行財政改革と職員の意識改革

合併の時期・時間的スケジュールをどのようになっているのか。  
合併特例法の期限である平成22年3月までが一つの目安に、まずは前回の問題を解決してから正式な合併協議会の設立を目指したい。

合併は最大の行政改革であり、合併の如何に関わらず行革を進めたい、そのような意識のもとで取り組んで参ります。

### 小学校再編の地域の拠点づくり

再編後の教育、文化活動の拠点を示して欲しい。

建物については、老朽化が進むので、地域の活性化等を含めて議会、また地域の学校跡地利用対策協議会等にもご意見を伺いながら、可能な限り有効利用に努めて参りたいと考えております。

### AED（自動体外式除細動器）の設置

土庄町内各小学校、中学校（児童生徒の心停止状態が懸念される）、公共施設等（地震災害時発生時の避難場所）にAEDの設置について。

現在のところ避難場所への設置計画はありませんが、県下の設置状況、また本体購入以外のリース、補助事業等の利用など様々な方法を活用して導入を検討したい。

### 公共交通路線バスの再生に向けた活性化策と「コミュニティーバス」の柱として行政、企業、商工会、地域住民等で地域協議会の設置について。

①公共交通は町づくりの柱として行政、企業、商工会、地域住民等で地域協議会の設置について。  
地域協議会については四国運輸局主催による

「小豆島のバス交通活性化委員会」において、「小豆島におけるバスを活用した交通のあり方」について現在検討しております。その報告をもとに検討して参りたい。

②土庄港から市街地を結ぶ「コミュニティーバス運行」について経過と今後の見通し。  
「ぐるっと100円バス」については、一日24便運行して7日間で合計326名、一日平均46・5人、一便平均1・9人の利用がございました。今後の見通しについては、検討していきたいと考えております。

③オリーブ百年祭にむけて、本州と小豆島を結ぶ大部港、福田港を交通の接続で観光の活性化を、さらに福祉バスと公共交通の一体化の見直しを。

オリーブ植栽百周年記念事業実行委員会の交通アクセス部会において、路線バスの土日祝日のダイヤ改正について現在検討しております。また、福祉バスと公共交通の一本化ですが、福祉バスについては現在の職員の退職を目処に委託先を検討する予定です。

その他次の2点を質問された。

①土庄高校第2期工事、19年実施計画の中では再編対象外の考え方があったが存続の長期的見通しについて。  
②土庄港の陸上部分の整備、国道の延長、周辺の利便性、環境整備とし国、県へ積極的に要請をし実現していただきたい。

### 泊 満夫議員

①契約種別、参加会社数、各施設の契約主管は、町内2社による随意契約です。契約主管課は8課で18施設を契約しています。

②価格交渉は何を基準に交渉しているのか。基本はマイナスシーリングです。

③各施設の清掃業会社は毎年変わっているのか。変わっていません。

④島内外を問わず入札参加会社を増やし競争原理を働かせるべきでは。また、フリーセンターの清掃は、観光協会に委託する方法は。可能な限り抑制の方向で交渉していますが、雇用など地域経済も勘案の上、著しく価格に不均衡がある場合は、島外からの見積りも検討したいと思っております。また、観光協会への委託についても、今後関係団体と協議し、検討したいと考えて

①公共交通は町づくりの柱として行政、企業、商工会、地域住民等で地域協議会の設置について。  
地域協議会については四国運輸局主催による

ております。

情報通信技術利用による地域間格差解消を図る勉強会の開催とインターネット設備早期導入に向けたNTTなど通信会社への積極的働きかけを

**A**

四国ブロードバンド推進連絡会など各種会議に参加し、行政と民間通信業者による協議及び連携を深め、経済的効果の高い整備方針の勉強会を継続し、今後も早期情報収集など体制、環境づくりに努めます。またインターネット設備早期導入については、NTTに対して機会あるごとに働きかけを行っております。

山本良熙 議員

コールセンターの誘致

**Q**

国土交通副大臣の国政報告の中で「コールセンター」を小豆島に誘致したいとの発言について町長の考えを。

**A**

1月14日に副大臣、四国経済産業局、香川県等が来庁する予定になっております。その時に色々と候補地を見ていただくということでこれらの進め方を模索したいと思っております。それにより若い人の雇用の拡大が一つの少子化防止対策にもなるかと思っておりますので、今後の進行状況を見な

から議会にもお諮りしたい。

三枝邦彦 議員

中央病院の重油使用

**Q**

中央病院の暖房を重油から電気に切り替えてはどうでしょうか。

**A**

病院の規模を考えると維持費は重油での運転が安価であると聞いております。よって当分の間はボイラーによる空調、給湯を継続して行きたい。

ボランティア教育

**Q**

ボランティアガイドは海、山等のガイドをすでに育成しています。教育についてはまだのようですが、放課後子ども教室に利用したり、各地区で子どものスポーツ、勉強などに使えるように募集をしてはいかがでしょうか。

**A**

社会教育分野におけるボランティアの募集については、その業務にかかる責任の度合いや、事業内容などを考えながら、自発的な善意を持った方々のお力を所管の行政分野に生かすべく、募集や口コミによる人材の発掘と活用を心がける所存です。

少子化対策

**Q**

第3子の補助金はありますかのようですが、不妊の夫婦も多いように聞いています。補助金の利用は可能ですか。

**A**

県では、平成16年度から医師の診断により特定不妊治療費助成を行っており、わが町においても今後検討してまいります。

**Q**

お見合いパーティーは、なぜ小豆島町とうまく連携をとらないのですか。

**A**

既に町として計画が進行しており、実行日を変更するのは困難であったため、同じ日の実施になりました。今後については、できるだけ情報を交換しながら、「独身男女の出会いの場」を提供していきたい。

井上正清 議員

子育て支援

**Q**

現在、土庄、瀧崎両幼稚園においては、保護者の特別な理由のある場合に短期の預かり保育が行われていると聞いております。

①3歳児の預かり保育を、5月から4〜5歳児同様な受け入れ態勢が望まれます。

②園への負担のかからない対策が望まれます。

**A**

土庄・瀧崎・四海幼稚園の3歳児における長期預かり保育の実施要望については、施設、職員配置、年齢差による保育内容の違い等で、慎重に行わなければならないと考えております。また、保育所は幼稚園よりも、低年齢に対する設備が充実しているため、3歳児については幼稚園の預かり保育で対応するよりも、保育所の施設

設で対応する方が望ましいという実情があります。また、もし長期の預かり保育を幼稚園で実施すれば、保育所から幼稚園へかなりの児童が移動すると予想され、幼稚園の部屋数が不足する事態も考えられます。いずれにせよ時代とともにニーズは移り変わってきておりますので、今後の検討課題の一つにしたい。

編集後記

本号は、12月議会にて決算及び視察研修報告があり、さらに一般質問においても多くの議員が、多数の質問をした結果、文字の大きさを小さくしました。少し見づらいつらいと思いますが、より多くの記事を掲載し、皆様に議会の動きを知っていただきたいの思いですのでぜひご理解下さい。



みんなが考えよう 未来の土庄町!

町議会の本会議は公開されております。皆さんが選んだ議員がどのような会議を行い、町政がどのように進められているかなど、町議会の実際を知りたい方は、いつでも傍聴することができます。詳しくは議会事務局へお尋ねください。(627-7001) 次町議会は、3月6日から予定しています。

この議会だよりは、再生紙を使用しています。